

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4071000568
法人名	協栄興産株式会社
事業所名	笹丘ふれあい館
所在地 (電話番号)	福岡市中央区笹丘1丁目15番1号 (電話)092-716-7307
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年8月1日

【情報提供票より】(平成21年7月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	26 人 常勤 26人, 非常勤 0人, 常勤換算 14.2人

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	700 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低	63 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	百年橋クリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは小高い所に位置しており、マンションや戸建ての住宅街の一角にある新築2階建てのホームである。リビングや居室は明るく快適で、スプリンクラーも設置されている。系列のグループホーム間で独自に工夫したきめ細かなアセスメント表に基づき、利用者がその人らしく楽しく暮らすことを支援している。利用者の明るく穏やかな表情から居心地の良さが伺われた。また、十分な職員数を配置して職員の福利厚生もしっかりしており、職員も生き生きと勤務している。毎月法人全体で学習会を行い、職員のスキルアップと介護サービスの向上に取り組んでおり、地域に期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点である運営推進会議については、定期的な会議の開催(4、6月開催)で今後についても2ヶ月毎開催予定としており、改善に向けて取り組まれている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価項目を全職員に配り、管理者が職員に項目についての聞き取りをしてまとめ、自己評価として作り上げている。気づきや改善点は職員間で検討され改善に向けて取り組まれている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月ごとに開催され、利用者、家族、町内会長、区長、民生委員、生き生き包括支援センター職員、管理者、職員の参加を得て、ホームの取り組んでいる事や利用者の暮らしぶり等を報告し、参加者から地域の行事や情報を聞いて、ケアや地域交流に取り組んでいる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 家族の訪問時には、職員は親しく会話する中で意見や苦情が言い易いように配慮している。また、直接職員に言いづらい場合は、設置している意見箱に投稿をお願いしている。出された意見等は職員間で検討し、改善すべき点は実施に向け取り組まれている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの真向かいの小学校で行われる夏祭りに利用者、職員が参加してイカ焼きを手伝ったり、敬老会で餅つきをしたりして地域との交流に努めている。自治区会にも加入しており、利用者と一緒に回覧板を届けたりしている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で皆と楽しく暮らしたい」との事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で理念を共有し、毎月のミーティング時には理念に基づいての「今月の目標」を掲げて取り組まれているが、ホーム内で掲示されている理念がホームの壁の見上げるほどの高い位置で気付きにくい。	○	理念は利用者、職員、訪問者に直ぐに目に留まる位置で、目立つようにしっかりした書字で表示されるよう望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの真向かいの小学校で行われる夏祭りに利用者、職員が参加してイカ焼きを手伝ったり、敬老会で餅つきをしたりして地域との交流に努めている。自治区会にも加入しており、利用者と一緒に回覧板を届けたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を全職員に配り、管理者が職員に項目についての聞き取りをしてまとめ、自己評価として作り上げている。気づきや改善点は職員間で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、利用者、家族、いきいき地域包括支援センター職員、区長、町内会長、民生委員、管理者、職員の参加を得て、ホームの取り組んでいることや利用者の暮らしぶり等を報告し、参加者から地域の情報を聞いたりしてサービスの向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者のオムツの支給についての相談やケアプランについて相談したり、地域包括支援センターの依頼でグループホームの見学者をうけいれたり、韓国の方の見学を受け入れたことある。介護保険の更新申請時にも担当者や情報の交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用されている利用者がある。法人で行われている権利擁護の研修に参加しており、職員は制度について理解している。入居契約時には、利用者、家族に制度の紹介をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行している「ふれあい通信」に一人ひとりの利用者について健康状態、生活状況、行事時の写真等を記載して個々の家族に郵送している。また、家族の訪問時には同様に報告をしている。金銭の預かりは基本的には行わないが依頼があれば少額を預かり、収支について家族に報告し確認してもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には、職員は親しく会話する中で意見や苦情が言い易いように配慮している。また、直接職員に言いづらい場合は、設置している意見箱に投稿をお願いしている。出された意見等は職員間で検討し、改善すべき点は実施に向け取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はあるが、法人間の職員の福利厚生がしっかりしており、退職者は結婚や病気による退職である。替わる場合は新任者と他の馴染みの職員が一緒になってケアを行い、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢等を理由に採用対象から排除することは無い。法人間で毎月テーマを決めて勉強会をしたり、資格取得に向けて外部研修への参加も促し、参加費や勤務日の調整をして支援している。職員の休日も希望日が可能であり、自己実現に向けての権利が保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	身体拘束の禁止についてはマニュアルを使用し、常に勉強会で学習している。また、利用者に対し尊厳を持って対応できているかを毎日モニタリングしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者は1年以内に管理者が教育を行い、現任者には法人全体で年間の研修計画を立て勉強会を行い、職員のスキルアップに取り組んでいる。外部研修には参加を促すと共にシフト調整をして支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修会等に参加し交流を深め、相互間で施設見学を行っている。また、職員の知人を通じて同業の事業所を訪問して、良いところは学び、ケアに役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず事前訪問をして、3泊4日の体験入居(有料)をしていただいている。その間の状況は毎日家族に報告している。入居決定時はできる限り自宅に近い環境創りに配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理で味付けや料理の技を習ったり、菜園で胡瓜やトマトの栽培を教わっている。また、大工さんをされていた利用者には部屋に棚を取り付けてもらうなど、共に支えあう関係が築かれている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自のアセスメント表を活用し、利用者の心身の情報等を収集している。職員会議で検討する機会を設けており、職員が気づいたことを話し合い、本人の思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から意向を汲み取り、介護計画の原案を作成し、これを基に関係者間で話し合いが行われている。話し合いに参加できない関係者には紙に書いてもらうなどの工夫をし、それぞれの意見を反映した介護計画の作成に努めている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が計画通り実行されているか否か、1日ごと確認している。毎月モニタリングを行い、必要な見直しがないか確認をしている。目標は3ヶ月に1度見直し、計画自体は半年に1回立て直すようにしている。これ以外に本人の状態の変化、希望により関係者と話し合い随時計画の見直しに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わり受診時の付き添いを行っている。また、希望があれば家族の宿泊等を受け入れ、寝具や食事の提供をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームの協力医の説明をし、同意をされた利用者は協力医をかかりつけ医として、週1回の往診を受けている。また他科受診には職員が付き添いで対応し、受診後は家族へ連絡報告を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームにおける対応の説明や本人・家族の意向を確認し、同意書を交わっている。重度化した場合は家族や関係者と話し合い、状態に応じて再度同意書を交わっている。全員で情報の共有を図り、可能な限り対応することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉かけや対応には職員同士配慮してケアをしている。個人記録のファイルは外部の目に付かないよう、事務所の棚に施錠して保管している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、朝起きれない方には起きた時点で朝食を摂ってもらったり、夜間眠れない方にはリビングで一緒にお茶を飲みながら眠くなるまで傍に寄り添う等、本人のペースで生活できるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材の買い物に行き材料を揃えている。冷蔵庫にある食材や宅配の食材を元に利用者と職員で相談を図りながら献立を決め調理している。盛り付け、片付け等職員と一緒にいき、職員も同じテーブルで同じ食事を摂っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日、時間の決まりは設けておらず、毎日入ることも可能である。入浴を拒む利用者には、「妻が面会に来る」等それとなく声掛けし、自然と入浴できている。最低週2回は入浴を楽しんでいただくよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の特技や能力に応じ、花の水やりや居室・リビングの床拭き等の役割を持った方がおられる。また、職員とパンづくりやぎょうぎづくり等楽しみごとに繋がる支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じ散歩を兼ねて近くのお地藏さん参りやダイエーに買い物等日常的な外出支援を行っている。他にタクシーを利用して大宰府へ花の見物や山笠の飾り山の見物など、日常的な外出以外に定期的な外出イベントを実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠はしていない。2階はセンサーで対応している。職員は目配りや見守ることで安全に配慮し、外に出られた利用者には職員が付き添い本人が納得するまで一緒に歩くことで対応し鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を昼間・夜間を想定し実施している。玄関を出て向かいの小学校が避難場所となっており、運営推進会議等で近隣の方の参加・協力を働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや味付け等は個別に対応しており、食事摂取量、水分摂取量等記録し把握に努めている。また、同法人が市内で運営している他ホームの食事担当者と話し合いの場を設け、更なる食の質が向上するよう取り組みを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節感が味わえるよう花が植えられている。利用者が集うリビングは対面式の台所カウンターからお互い顔を見渡せるつくりになっており、共用部分も整理整頓されている。廊下には利用者が書いた書道の作品が飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、利用者の使い慣れた筆筒など持込み、家具の配置など住み慣れた部屋に近くなるよう配慮している。また植物が好きの方にはプランターを置いたり、個別に好みの物を持ってきてもらったりして、居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p>		